

所報

題字：武田満之校長（平成9年、野幌中学校）

第150号 令和2年1月14日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6 TEL381-1058

(主な内容)

・令和元年度学力向上策ヒアリングを終えて



令和元年度学力向上策ヒアリングを終えて

江別市教育委員会
学校教育課指導主事

本年度の「学力向上策ヒアリング」を8月下旬から9月中旬にかけて実施しました。お忙しい中、校長先生、教頭先生はじめ主幹教諭、教務や研究等の担当の先生方の出席をいただきました。各学校の実態を踏まえた特色ある学力向上の取組について伺うことができ、誠に有難うございました。

江別市の令和元年度全国学力・学習状況調査の結果、江別市学校改善支援プランより課題改善策の一部抜粋、各小・中学校の学力向上の取組の一部を紹介させていただきます。

全国学力・学習状況調査の詳しい結果は、江別市教育委員会のホームページに掲載しています。

1 令和元年度 全国学力・学習状況調査の江別市の調査結果

[平均正答率:単位 (%)]

教科	小学校		中学校			備考
	国語	算数	国語	数学	英語	
江別市	66	67	74	61	58	
北海道	63	64	72	58	54	
全国	63.8	66.6	72.8	59.8	56.0	

<教科に関する調査結果>

- 小学校6年生は、すべての教科で、全道、全国平均を上回っています。
- 中学校3年生は、すべての教科で、全道、全国平均を上回っています。

<質問紙調査に関する結果の概要>

- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、大変落ち着いた状態にあると言えます。
- パソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、ICT（情報通信技術）を活用した授業が積極的に行われています。
- 「家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、家庭学習の習慣化のためにていねいな指導が行われています。

2 調査結果から見られる課題の改善のために

(令和元年度「江別市学校改善支援プラン」より)

- 全国学力・学習状況調査を活用した、継続的な検証改善（PDCA）サイクルを確立し、児童生徒一人一人の学習状況の改善のため、学校がチームとして学力向上の取組を推進していく必要があります。
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業改善による学習活動の質的な向上、「カリキュラム・マネジメント」の確立、ICT 機器やデジタル教科書の効果的な活用、家庭学習の習慣化、放課後や長期休業期間中等における補足的な学習サポートを継続する必要があります。
- 児童生徒質問紙で、「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに、全国平均を下回っている。引き続き教育活動全体を通じて、一人一人のよさや可能性を見いだして自己肯定感、自己有用感を高める教育を充実させる必要があります。
- 中学校区内の小中学校間で、学校改善プランや学力調査等の結果、学習規律や家庭学習の習慣化など、児童生徒の学習状況について情報を共有しているが、義務教育9年間で児童生徒に育成したい力を明確にし、系統性を確保した指導の一貫性を踏まえ、重点的に取り組む指導内容を共有して、学力向上に向けた小・中連携を一層推進する必要があります。

3 学力向上の取組

(1) 学校全体での組織的な取組

- 全国学力調査や標準学力検査の結果分析を行い、経年変化を分析・蓄積するとともに、学力の向上に必要な具体的な改善策を定め、組織的・継続的な学力向上の取組が進んでいます。

(2) ICT 機器や指導用デジタル教科書の効果的な活用

- 指導の効果を高めるために、ICT 機器やデジタル教科書が有効に活用されています。
- 教室内の ICT 機器の設置位置を統一したり、スクリーンにホワイトボードを利用したり、各教室の壁に規格を統一して自作スクリーンを常設するなど活用しやすい環境づくりが進んでいます。

(3) 学習規律

- 各小中学校では、学習規律や礼儀正しさについて、継続的にていねいに指導されています。多くの学校で学習の約束を掲示・配布し、ラミネートにして全校生徒に配布している学校もあります。

(4) 「見通し、ふり返り」と板書

- 「授業の冒頭で目標を示す」、「まとめ・ふりかえりによる理解の確認」、「理解深化のための定着問題の実施」、「児童生徒の自己評価」など指導過程を工夫し、小学校、中学校ともに、基礎学力を定着する授業改善の取組が継続されています。
- ノート指導につながる「板書」を重視し、1時間の学習の流れや学習内容が一目でわかる構造的な板書にするため、指導案とともに板書について校内研修に位置づけている学校もあります。

(5) 「主体的・対話的で深い学び」とカリキュラム・マネジメント

- 単元や題材のまとまりの中で、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、子どもたちが「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を「カリキュラム・マネジメント」を通じて、組み立てていくことが重要です。

(6) 家庭学習の習慣化

- 全国学力調査の結果から、「家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、家庭学習の習慣化のためにていねいな指導が行われています。

(7) 小・中学校の連携

- 義務教育9年間で児童生徒に育成したい力を明確にし、系統性と指導の一貫性を踏まえ、重点的に取り組む指導内容を共有して、学力向上に向けた小・中連携の取組をさらに充実していただくようお願いいたします。